

Our Planet

地球環境のために

私たちの環境に対する基本理念は“地球のことを考えて行動する”です。世界的な課題である気候変動や環境汚染について、社会の一員として積極的に取り組み環境保全に寄与すると共に、事業活動における環境負荷の軽減についても常に検討し、行動していきます。

脱プラスチックの取り組み

脱プラスチックに向けて、マクドナルドはグローバル全体で「2025年末までに、すべてのお客様提供用パッケージ類を、再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材に変更する」「ハッピーセット®のおもちゃにおいてプラスチックを大幅に削減していく」というコミットメントを掲げています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/>

紙製ストロー・木製カトラリーの導入

マクドナルドでは、環境配慮はもちろん、おいしさや安全性、使いやすさを考慮しながら、プラスチックに替わる素材のストローなどの開発を進めてまいりました。2022年10月からは全国の店舗にて、環境に優しいFSC®認証材を使用した紙製ストロー、木製カトラリーを提供しています。これにより年間約900トンのプラスチックを削減することになります。



※お子様用ストローとマックシェイク®など一部商品用ストローはプラスチックストローで提供しています。



HAVI Global Solutions
合同会社 (tms)
パッケージング
ディベロップメントマネージャー
神田 明子さん

環境面をはじめ様々な面に考慮し、お客様や店舗がストレスなく使用できるよう開発しました。例えば、紙製ストローは、数十の原材料から最適なものの選択や構造の工夫により、飲みやすさと耐久性を追求。木製カトラリーは、お子様も大人も食べやすく安全な形状を目指しました。多くの人に身近な存在であるマクドナルドが脱プラスチックに取り組むことは、社会に大きな影響があり、この取り組みへの貢献は大変意義のあることだと感じています。今後もスケールを活かしてポジティブな影響を与える存在であることを期待すると共に、全力でサポートしていきます。

サステナブルな素材を使用したおもちゃへの移行



2025年末までにすべてのハッピーセットのおもちゃを再生可能な素材、リサイクル素材もしくは認証された素材など、サステナブルな素材へ移行し、2018年に比べ、化石資源由来の原料を新規に使用したプラスチックの量を約90%削減します。この削減目標に向け、2018年からはハッピーセットのおもちゃに図鑑や絵本を導入、2021年からは紙製おもちゃを導入、2022年は紙製おもちゃの包装材もFSC認証を取得した紙製に変更しました。

おもちゃリサイクルの実施

ハッピーセットのおもちゃを全国の店舗で回収しリサイクルするプロジェクトを2018年から行っています。リサイクルへの参加や、店内で使われている緑色のトレイを見ることは、子供の時期から環境について考えるきっかけづくりにも寄与しています。

回収したおもちゃの数

累計約 **1,500** 万個

おもちゃリサイクルで作られたトレイの数

累計約 **391,540** 枚



Our Planet

脱炭素に向けた取り組み

「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」に向けて、マクドナルドでは事業活動におけるエネルギーの削減を優先課題と考えています。実行に向けグローバル全体で2030年までに「店舗とオフィスは15年比で排出総量を36%減」「サプライチェーンでは15年比は生産1トンあたりの排出量を31%減」と目標を掲げ、店舗でのエネルギー管理や再生可能エネルギーに由来した電力の導入、省エネ機器の導入など環境負荷の最適化に努めています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/>

物流の効率化

食材・資材運搬時の使用エネルギーを削減する取り組みとして、サプライチェーンにおける配送業務等の平準化・効率化、輸送の共同化、資材輸送のモーダル輸送化などを実施しています。



国産木材を活用した店舗づくり

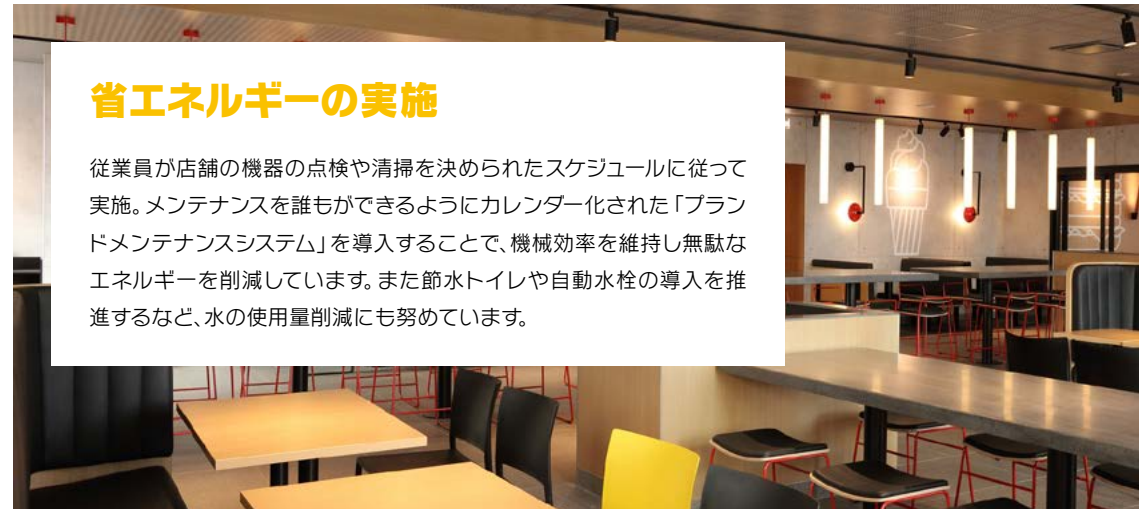


日本の森林を守ることは、生態系の保全や水の確保、山崩れなどの災害から地域の人々を守ることに繋がります。そして地球温暖化防止には、CO₂の排出量削減と共にCO₂の吸収源を確保することが重要です。

マクドナルドは、林野庁が推進する「ウッド・チェンジ・ネットワーク」の趣旨に賛同し、国産木材を活用した店舗づくりを推進しています。国産木材を構造に活用したものは47店舗、外装装飾、内装装飾のいずれかに国産木材を使用した店舗を加えると計145店舗あります。

省エネルギーの実施

従業員が店舗の機器の点検や清掃を決められたスケジュールに従って実施。メンテナンスを誰もができるようにカレンダー化された「ブランドメンテナンスシステム」を導入することで、機械効率を維持し無駄なエネルギーを削減しています。また節水トイレや自動水栓の導入を推進するなど、水の使用量削減にも努めています。



地球にやさしい電力の導入

2022年より、太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーに由来した電力を126店舗に導入しました。これにより、店舗の照明や空調などの電気機器の使用に伴うCO₂の排出を抑制しています。省エネ施策を深化させつつ、より環境負荷の低いエネルギーの使用を進めてまいります。



林野庁 林政部
木材利用課 課長
小島 裕章さん

ウッド・チェンジ・ネットワークでは、カーボンニュートラルへの貢献や地方創生を目指し、官民が連携して民間建築物等での木材利用の促進に向けた活動を行っています。日本マクドナルドは店舗の木造化や外装および内装装飾への国産木材の利用に積極的に取り組むと共に、それらの事例や知見を協議会へ共有し、ウッド・チェンジ・ネットワーク全体の視野の広がりや活動の推進に貢献いただいています。今後とも国産木材を活用した店舗づくりを通じ、木材利用の意義などを、全国の皆さまに積極的に発信していただくことを期待しています。

Our Planet

食品の2R

食品廃棄物のリデュースやリサイクルを実施しています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/>

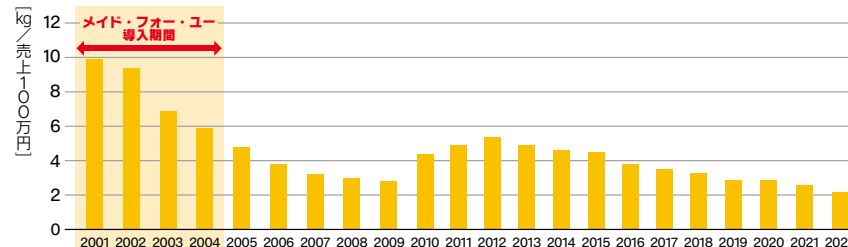
食品ロス削減の取り組み (Reduce)

「メイド・フォー・ユー (MFY)」システムの導入

2001年から、マクドナルドでは注文を受けてからバーガー類を調理するオリジナルのシステム「メイド・フォー・ユー (MFY)」を導入しています。お待たせせずにできたてのおいしさをご提供できると共に、以前の作り置きシステムに比べ、完成品商品の廃棄量が大きく減少しました。

食品ロス率 **2.4%** ※ 食部の廃棄量 (kg) ÷ 食品の仕入れ量 (kg) にて算出

売上100万円あたりの商品廃棄量



食べ残しを減らす取り組み

「食べ残し」による食品ロスの削減を目指して、お客様と共に取り組んでいます。例えば、バーガー類・ドリンク・ポテトなど、マクドナルドでは様々なサイズで商品を提供しており、お客様ご自身で食べ切れる量をお選びいただけます。ドリンクに添える砂糖やミルクなどのコンティメントにおいても、お客様にお伺いしたうえで必要な量をご提供しています。また食べ切ることができなかった場合には、お客様の要望に応じてお持ち帰り用の紙袋などをお渡ししています。

食品リサイクル (Recycle)

食品リサイクル法に定められた優先順位に則り、飼料化、肥料化、バイオマス燃料化を行っています。

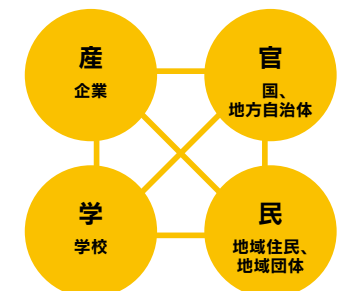
廃食用油（フライオイル）は全店舗にてほぼ100%を、主に鶏の配合飼料としてリサイクルしています。そしてポテトあげかすにおいても、大阪府内の一部店舗で飼料化を実施しています。また2016年からはコーヒードカスを兵庫県姫路市内の一部店舗でたい肥として再資源化。2020年からは香川県の農家と協働し、このたい肥を使用して栽培したレタスを商品としてお客様へ提供する循環型リサイクルを開始しています。また、このたい肥は姫路市の小学校にも贈呈し活用してもらっています。

食品リサイクル率* **65.0%** ※ 食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む



産官学民の取り組み

地球環境について、一人ひとりが考え行動することが大切だと考えています。2021年からは継続して、マクドナルドと自治体、大学が連携し、講義を実施。受講した大学生が環境問題を題材にトレイマットをデザインするコンテストを行い、オンライン投票で選ばれた最優秀作品を地域の店舗で実際にトレイマットとして使用しました。マクドナルドではこれからも様々なステークホルダーと連携した取り組みを推進していきます。



Our Planet

2022年廃棄物・エネルギーデータ

廃棄物発生状況

全店の
食品・容器包装廃棄物量

食品リサイクル率※
65.0%

※食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む

売上100万円あたりの
食品・容器包装廃棄物量

食品リサイクル法に基づくファーストフード店の
発生抑制目標値83.3kg/百万円を下回っています。



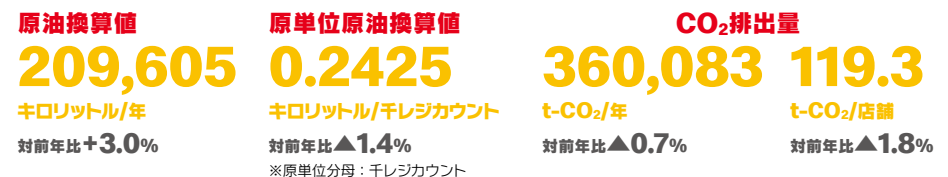
総評 2022年は対前年比110%の売上増加を背景に、廃棄物量全体も2.4%増加しましたが、売上100万円あたりの食品廃棄物量は12.0%減少しています。食品リサイクル率は前年60.2%から65.0%に向上しました。またプラスチックの削減を目指して、紙製ストロー・木製カトラリーの全国導入を行いました。

エネルギー使用状況&CO₂排出状況

全店の種別エネルギー使用状況



お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況

全体のエネルギー使用状況&CO₂排出量

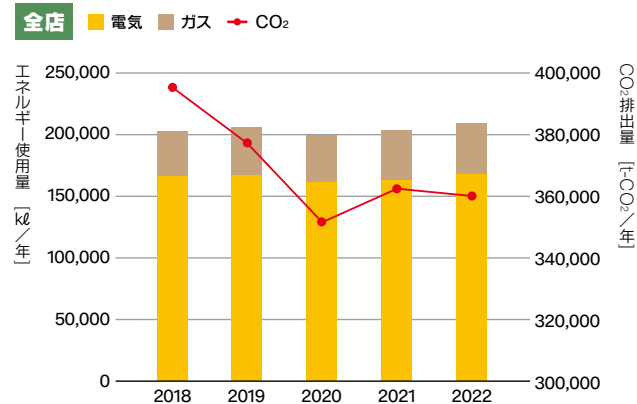
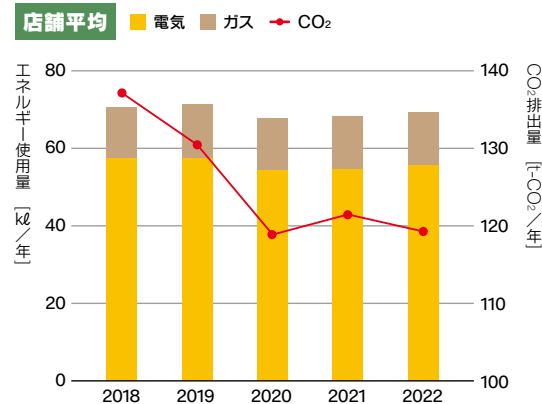
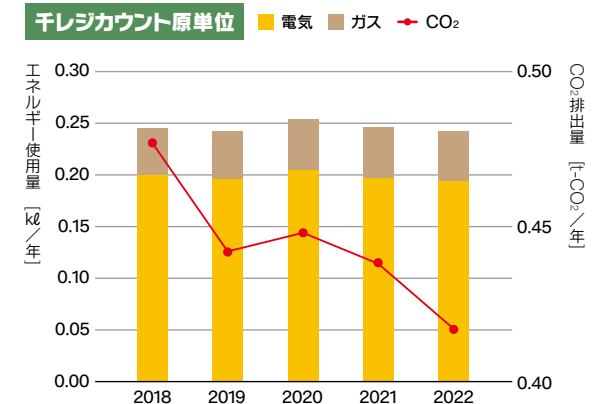
総評 店舗数の増加を主な背景に、2022年のエネルギー使用量は対前年比103%と増加しました。一方で、お客様千人あたりのエネルギー使用量は、電気で1.4%減、ガスで1.3%減と、前年に引き続き減少しています。2022年春より再生可能エネルギー由来の電力を導入した店舗では、電力使用によるCO₂排出量がゼロとなりました。これにより、全店のCO₂排出量も前年比で減少しています。

Our Planet

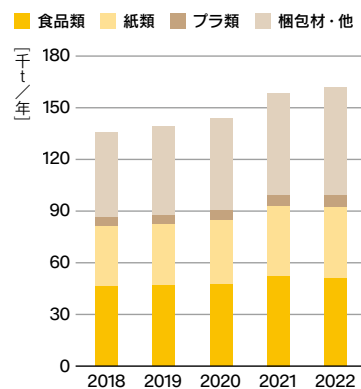
環境データ推移

環境にかかわる過去5年間の推移を7つのグラフで示しています。

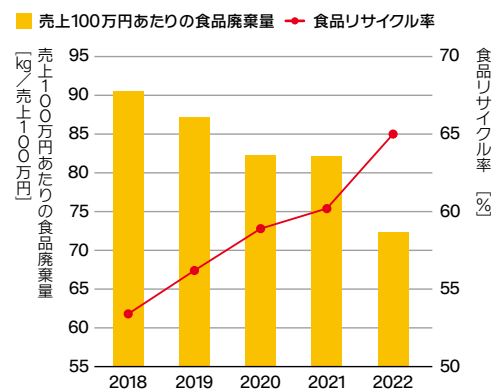
- エネルギー使用量 & CO₂排出量 (全店・店舗平均・千レジカント原単位)
- 全店廃棄物排出量
- 売上100万円あたりの食品廃棄量 & 食品リサイクル率
- 全食品ロス量 & 売上100万円あたりの食品ロス量
- 全店フロン排出量

エネルギー使用量 & CO₂排出量エネルギー使用量 & CO₂排出量エネルギー使用量 & CO₂排出量

全店廃棄物排出量

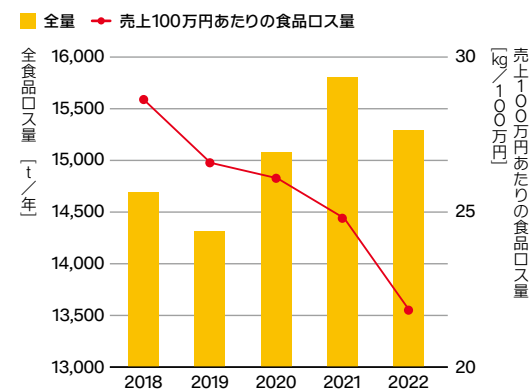


売上100万円あたりの食品廃棄量 & 食品リサイクル率



※食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値=83.3 kg/百万円

全食品ロス量 & 売上100万円あたりの食品ロス量



全店フロン排出量

※4月から翌年3月までを算出

